

令和5年度 江津市立高角小学校 学校評価

めざす子ども

- たのしみ子...一人ひとりが学校生活を楽しめる子であってほしい！
- かかわる子...ひと・もの・こととの関わりを喜び・楽しんでほしい！
- つづける子...努力を続けることを楽しみ、達成することを喜んでほしい！
- のびやかな子...自分・友だちが緩やかにつながり、のびのびと生活できる時と場を創り、成長してほしい！

学校教育目標 「豊かな心とたくましさを持ち、確かな学力を身につけた子どもの育成」

学校経営目標 「一人一人が主役 みんなが創る 高角小学校」

- 評価の基準
- 1:ほとんど達成できていない
 - 2:3~4割程度達成できた
 - 3:5割程度達成できた
 - 4:6~7割程度達成できた
 - 5:ほぼ達成できた

取組の重点	重点項目	目標達成のための計画(成果・取り組み指標)		評価	○成果と●課題	改善策	児童アンケート項目	保護者アンケート項目	地域アンケート項目	運営協議会意見
		具体的方策	評価の観点							
学力育成	表現力(伝え合う力)を育てる授業づくりに取り組む。	ねらいや実態に応じた、ペア学習、グループ学習を生かし、全体で伝え合う場での表現力を高める。	学級全体に自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いて反応したりする姿が多く見られるようになったか。	3.8	○ペア学習やグループ学習を授業の中に取り入れることで、多数の学級でも自分の考えを伝える機会が増えた。○学習を進める中で、ペアやグループ、全体で考えを話す、伝え合うことを意識した。発表への児童の意識も変化が見られ、意欲的になったと思う。○ペアやグループ活動を積極的に取り入れることにより全体で発表することの抵抗が少なくなった。○少人数での話し合いは意見を出しやすい場になっていたと感じ、全体での話し合いを進めていくうえでも効果的であった。○個別に対応することで自分の言葉で伝えることができている。○授業ではないが、自分のことを伝える力を付けるということをねらいとして、保健室での関わり、問いかけを意識した。○発問や課題を工夫していくことで、自分の考えを伝えたり、相手の考えを興味や関心をもって聞こうとする子が増えた。○何を伝え合うかはっきりさせること、伝え方の例を教えることでだんだん上手になってきた。 ●友だち同士での関わりは難しいが、チャレンジは続けている。●反応の仕方に困る児童がいる。●聞く力を高めていく必要がある。	・反応の仕方の掲示や良い反応の仕方をした児童を取り上げプラスの声掛けをする。 ・聞く力に個人差が大きい。語彙力が影響している面が多々見られる。聞く姿勢も大切だが、相手の話している内容の理解をしていくためにも、個々の語彙力を高めるための工夫をしていく。	・授業の内容はよくわかった。→95% ・話し合いで、自分の考えを進んで話した。→86% ・自分の考えを説明するとき、わけも言うようにした。→72% ・話し合いで相手の話をしっかり聞くことができた。→94% ・授業で友達のを聞くと、自分の考えの参考になった。→93% ・「ペア・グループ・全体」で自分の考えを説明したり、発表したりした。→83% ・タブレットの使い方に慣れてきた。→98%	・学習内容が身に付くように、学習指導を行っている。→94%	・子どもの学習内容が身に付くように、学習指導を行っている。→100%	・子どもたちが将来へ向けての目標をもつためにも、今後も地域人材や専門知識を有する大人との交流活動や実体験活動を積極的に取り入れてほしい。 ・IPUアウトリーチ表現教育の取組が非常に良かった。子どもたちも心を開放して身体表現を行う姿が印象的だった。大学生との交流する姿にも感動した。 ・児童アンケートでほとんどの子どもたちが、友達と楽しく過ごせたと回答している。学校生活を楽しくしていることに安心した。 ・新型コロナが5類になり、角っ子広場も再開し、放課後に子どもたちが楽しく遊ぶ姿が戻ってきてよかった。
	ICT教材を利用した学習活動を積極的に推進する。	ICT情報活用能力に関する系統表に基づき、学習にICTを取り入れる。	児童に情報活用能力が育っているか(情報活用能力に関する系統表に基づき)。	3.4	○タブレットの活用により使い方に慣れてきた。○ICT支援員に相談しながら使用することができた。○図工や生活では作品を提出したり写真を撮って観察の記録を付けるなど活用ができた。○タブレットを活用し、観察記録をとったり、タブレットドリルをさせたりした。実物投影機やデジタル教科書を積極的に使うことで、活用能力は高まったと考える。 ●交流での活用は、ローマ字入力や内容の理解の困難さのために自在に活用できていない。●ICT情報活用能力の系統表を意識するところまでいっていない。●ICT活用の可能性や指導における効果を模索しないとダメ。●算数、国語での活用ができなかった。●タブレット等の操作に個人差が見られる。●学習のどの場・内容で活用するとよいか考え、活用することが必要だと思った。それを計画することがなかなかできないことが課題である。	・授業中での効果的な活用について研修をする。 ・タブレットドリルやskymenuのツールを使って学習補充をする。 ・操作に慣れるためにも積極的に活用していく。 ・図書資料やICT教材などを活用した学習活動を行う。 ・情報活用能力学年系統表を見直し、引き続き指導していく。	・授業の活用はできた。→87%			
ふるさと・キャリア教育	自己を見つめるキャリアパスポートを活用する。	キャリアパスポートを利用して自分を見つめる場を持つ。学びの蓄積と振り返りを行う。	キャリアパスポートの活用が、児童一人一人の学びの蓄積と振り返りに役立ったか。	3.9	○行事のふり返り等をキャリアパスポートにつなげる形ができてきた。○行事ごとにキャリアパスポートを書き、掲示してどんなことができるようになったかなど、自己を振り返る材料として活用することができた。 ●記録内容については、十分ではない。ふり返りが難しい児童がいる。●行事、学習毎に振り返りはするが、キャリアパスポートとして活用できないこともあった。	・交流学級の児童とともに活動することでふり返る視点を感じとらせる。→友だちの表現を知ることによって本人の語彙も次第に増えている。	・ふるさと(島根・江津・嘉久志・和木)のことを勉強して新しいことを知ることができた。→87% ・キャリアパスポートで、自分のことを振り返ることができた。→89%	・嘉久志・和木の地域やふるさとを勉強して新しいことを知ることができた。→96%	・嘉久志・和木の地域やふるさとを勉強して新しいことを知ることができた。→100%	
人権・同和教育	自分や友だちの良さを認め合う場を意識的に設定する。	・各教科の学習や学級活動の中に、互いに関わり合い、理解し合う場面を設ける。 ・人権週間を中心に、人権に関する学習内容の授業公開を行い、保護者と共に人権意識を高める。	お互いを認め合い、友だちとの良い関係を築きこうとしているか。	4.0	○人権週間や人権集会の取り組みで、自分や相手を大切にするという意識を持たせることができた。○4年保健では、「個人差」というキーワードが何度か出てくるし、思春期の心の変化では異性への意識についても話題となるので、その機会に互いに違っていることを認め合う大切さについて指導した。○グループで活動する際、児童同士の肯定的な関わりを全体で認めたことで、お互いの考えを認め合う雰囲気が出てきた。○帰りの会で、いい所見つけの時間を各週で設けて日直が発表し、互いを認め合うことにつなげている。○ペアやグループごとの関わりを取り入れることで、関わることに慣れ、心地よさを感じていた。良さを見つけることを設定すると見つける目をもとうと意識するようになった。 ●相手を思いやることの困難さを抱えている。●良いところ発表される児童に偏りがある。●価値には気づいているが、なかなか実践に移せない子も見受けられ、個別・全体指導をした。	・個別での会話のなかで相手を尊重する言葉遣いや挨拶など、指導者が率先して使用する。 ・ぬくもりのあることばや行いを感じさせ、体得できるようにする。 ・きれいなことばではなく、本心から価値に気づき、実践に移していけるように、個々の児童の実態をより見つけ、個に応じた指導・支援をしていく必要がある。	・友達と楽しく過ごせた。→99% ・困ったり悩んだりしたとき、友達や先生に相談して安心した。→88% ・友達が困っているとき、声をかけたり助けたりすることができた。→94%	・トラブルやいじめに適切な対応を行っている。→90%		
高角のふるまい	あいさつ・返事・言葉づかい・掃除・はきものそろえ・廊下歩行に重点をおき、互いに気持ちよく過ごせるようにする。	あいさつや言葉遣い等について、目標を掲げ、強化期間を設定し取り組む。	あいさつ・返事・言葉づかい・掃除・はきものそろえ・廊下歩行についてよくなったか。	3.6	○委員会が工夫した取り組みが行われ意識できた。○あいさつ、はきものそろえは児童会や各学級の取組でもとて良くなっていると思う。○生徒指導部や委員会活動などで、あいさつやくつそろえ、廊下歩行等々呼びかけをし、改善に向けて様々な工夫をしていた。○強化期間を設定することで終わっても続けて靴を揃えたり、先取りあいさつしたりするようになった。○声掛け、意識付けをすると、気を付けるようになり、習慣化できるようになってきた。 ●あいさつ、言葉遣い、スリッパそろえについてはなかなか定着していかない。●特に昇降口の廊下歩行、雨の日の校舎内での遊び方に課題がある。●取組をしているときはできていても、継続的にはできていないように思う。意識の継続が難しい。●スリッパの乱れがとて目立つ。強化期間外でも揃うとよい。	・指導者が率先して好ましい行動や言動を示す。 ・委員会の取り組みが継続できるような学級の係活動等につなげていく。 ・日々の声かけや強化週間等を引き続き設け、習慣化していけるようにする。 ・今後もいろいろな手立てを考えながら、計画的継続的に取り組んでいく必要がある。	・明るく、いつも進んであいさつができた。→86% ・「廊下は歩く」など、学校生活のめあてを守って生活できた。→78% ・手洗いやうがいをして健康的な生活ができた。→87% ・休み時間に、体を動かして遊ぶことができた。→83%	・あいさつが向上するための取組を行っている。→86%	・学校が行っているふるまい向上の取組により、子どもたちのあいさつは向上している。→84% ・子どもたちの地域での生活の様子から、交通ルールを守ることや危険な遊びをしないなど、安全に生活している。→79%	

取組の重点	重点項目	目標達成のための計画(成果・取り組み指標)		評価	○成果と●課題	改善策	児童アンケート項目	保護者アンケート項目	地域アンケート項目
		具体的方策	評価の観点						
教務部	学習環境を整える	子どもの学習・活動がみえる校内掲示づくり(月ごとに更新)	月ごとに校内掲示を更新することができたか。	3	○行事や校外学習などの写真を昇降口に掲示した。児童が自分の姿だけでなく、他学年の様子を嬉しそうに見ていた。 ●掲示すべき行事が多い2学期に、更新できなかった。	・月末にまとめて掲示していたが、行事があった時に掲示し、更新する。			
		教室環境の美化に努める。(特別教室の整理整頓を月1回行う)	教室環境整備を行い、学習環境を整えることができたか。	3	○使用する際に机や物の整理整頓、黒板の美化に努めた。 ●特にぐんぐん教室は、児童の荷物なども多く、頻りに利用するので乱雑になることが多かった。	・特別教室の利用の仕方や片付けなどの約束を明確にする。			
研究部	基礎学力の向上	計算・書き取り会を毎月実施する。	計算・書き取り会の合格率が8割以上だったか。	4	○基礎学力が身につけてきた。○児童が計画を立てて学習する方法を身につけた。 ●合格点に到達できない児童が数名いる。	・家庭との連携を密に図りながら、個に応じた指導を工夫する。			
		自学ノートの良い取り組みを紹介したり、表彰したりする。	自学に進んで取り組んだ児童が増えたか。	4	○毎学期良い取組を紹介することで、自学に対する意識が高まった。	・来年度も継続して自学週間の取組を行い、自主学習が身につくようにしていく。			
	子どもの考える力を育てる授業づくり	研究授業の推進 1人1授業公開	児童の学習についてのアンケート等を参考にしながら授業改善や教材研究を行うことができたか。	5	○全教員の授業公開を行い、研究主題に沿って授業改善を行った。	・今後も、児童の考える力、伝え合う力を高めるための授業の工夫を積み重ねる。			
総務部	業務改善を進める	ペーパーレス化を進める。(デスクネットのさらなる活用)	ペーパーレス化が進んだか。	5	○職員会議をデスクネットを使用して行うことで、資料のペーパーレス化で実施した。 ○回覧レポートの積極的な使用でペーパーレス化を図った。 ○FAXからメールへの移行を進めていった。 ●PCを持たない職員への情報等の周知。	・文書の中で電子化できるものはして保存し、紙での保存を減らしていく。 ・セキュリティ対策の面からもFAXを使用からメール使用に移行していく。			
		業務の精選・見直し(事務処理がスムーズにできるよう、ソフト作成、内容の見直しを進める)	業務の精選や見直しが進んだか。	2	○復命書テンプレートの改良を行った。 ○デスクネットの回覧レポートの使用により、印刷にかかる時間の削減できた。 ●事務処理がスムーズにできるソフト作成ができなかった。	・校務支援システムの効率的な運用を図る。			
	環境整備に取り組む	校内環境整備:生活しやすい、学習しやすい場にするために、計画的に修繕や修繕要望を行う。	校内の環境整備が進んだか。	4	○理科室エアコン交換・昇降口扉枠補修・階段照明LED化。 ○校内で修繕可能なものは、できるだけ素早く対応した。 ○備品を計画通りに整備できた。	・トイレ洋式化(特に低学年)と、廊下のPタイルの張替え要望していく。			
	職員室・パソコンデータの整理整頓を進め、働きやすい環境にする。	働きやすい環境になっているか。	3	○過去の膨大なデータのスリム化作業を行った。 ●サーバ内でのデータ保存のルール統一をしていく必要がある。	・データ保存・運用ルール統一を図る。				
指導支援部	児童一人ひとりがきまりを守り、落ち着いた学校生活を送れるようにする	生活目標と達成のための手立てを各委員会が考え、全校に呼びかける。	委員会活動によって、生活目標が達成することができたか。	3	○6年生を中心に児童会で目標を考えることができた。 ●生活委員会が考えた目標がほとんどで、全ての委員会が関わることができなかった。	・年度はじめに月担当の割り振りを行い、各委員会が責任をもって全校に呼びかけるようにする。			
		月末に学級で生活目標の振り返りを行い、昇降口に掲示する。	月ごとに生活を振り返り、生活改善できたか。	3	○毎月生活目標の振り返りを行い、自分たちの行動を見つめ直す機会をもつことができた。 ●生活目標の意識を児童の中で持続させることができなかった。	・担任が話をしたり、定期的に各委員会が呼びかけたりする。			
	児童の多面的な情報を集め、有効な支援を行う	毎回の職員会議で、気になる児童の実態やかかわり方の情報を出し合い、職員全体で共有する。	児童が安心して学校生活を送っていると感じているか。	4	○職員会議や終礼等で、児童について情報を共有したことで、共通理解を図ることができ、適切な対応をとることができた。 ●不定期にしか行うことができなかった。	・定期的に情報提供の場をもつ。			
		日頃からの実態把握や、より良い関係づくりに意識して取り組み、教育相談習慣を活用して児童の実態を整理する。	教育相談を通して、児童一人ひとりの理解が深まったか。	4	○児童同士のトラブルの早期発見・早期解決につながった。	・教育相談週間に限らず、普段からの関係づくりを心がける。			